

校長室だより

日本福祉大学附属高校 2020年3月2日

万人の福祉のために
真実と慈愛と献身を



卒業式を挙行しました～規模縮小・時間短縮の中～

今年度の卒業式は新型コロナウイルスの影響で、例年のとりくみは困難になり、開催さえ危ぶまれる中、規模縮小、時間短縮、人の間隔を空ける、換気に注意するなど、最大限の配慮や工夫をして、挙行することができました。様々な厳しい条件下だけに卒業証書授与式はキビキビと緊張感にあふれ、卒業生発表は短時間でも心に残るものとなりました。保護者の皆様、協力をありがとうございました。



(校長式辞より) 抜粋

先ほど担任の先生から一人一人の名前が呼ばれ、皆さんは本校の三年間の課程を修了したことが確認されました。今、皆さんの胸の中にはこの3年間の思い出が詰まっていることと思います。皆さんが書いてくれた卒業文集からそのことが伝わってきました。部活動で頑張った思い出、授業や勉強について、修学旅行や生徒会活動やフィリピンのスタディツアーのことなど。将来の進路についてもありました。

どの人も本校での高校生活を通じて確かな成長の跡を感じることができました。皆さんの頑張りで、部活動を始めとする様々な分野で昨年度以上の成果を挙げることができ、後輩諸君にしっかりとバトンを渡してくれました。皆さんが築いてくれた実績を力に、これからも付属高校は魅力ある学校づくりに挑戦していきたいと思えます。

卒業にあたって皆さんに、言葉を贈りたいと思います。昨年末アフガニスタンで凶弾に倒れた中村 哲医師がしばしば使われた言葉「一隅を照らす」です。中村先生はパキスタンやアフガニスタンで医療活動に従事する傍ら、大かんばんに見舞われた際、「百の診療所より一本の用水路が必要」なことを痛感され、農村復興のための水利事業を続けられてこられました。

「一隅を照らす」とは、「自分が今いる場所で最善を尽くすことが、隣人や世界を良くすることに通じる」というものです。そのことは、学園の創立者でハンセン病患者や戦争孤児、知的障がいを持った子どもたちの救済に尽くされた鈴木修学先生の生き方と重なるところがあります。そのような学園で学んだ皆さんは、本校が大切にしている「誰かのために」を胸に刻み、人の幸せに役立つ人になってもらいたいと願います。



卒業文集「知多信線」完成

教職員、卒業生全員の言葉や、部活動代表者の感想、保護者の言葉など見どころ（読みどころ？）満載です。卒業後もこれを読んで高校時代を思い出してください。文集委員さんご苦労様でした。



コロナウイルス感染拡大防止のため休校とします

期間：2020年3月2日(月)～3月18日(水)

1. 学校からのお知らせはホームページ「重要なお知らせ」を通じて行います。
2. 学習課題について後日、指示プリントを郵送します。(配布済のものに加え) 他スタディサプリの活用も。
3. 万一、ウイルスに感染した場合は速やかにお知らせ願います。(学校Tel 0569-87-2311)

卒業生代表の言葉 (一部略)

○今から3年前、「この高校でサッカーがしたい」「将来の夢を実現するため、日本福祉大学に入学したい」という2つの理由でこの高校の門をくぐりました。サッカー部に入部し、中学のころとは比べ物にならないほどの過酷なトレーニングを仲間と乗り越えた日々。その過酷さの中で仲間との絆が深まっていくのを感じると同時に、試合に出れていない自分と、1年生ながら試合で活躍している同級生を比べ、いつか自分もあんなふうになりたいという憧れが、その埋められない大きな壁を前に、挫折感に変わっていくのを感じました。ところが、チームの現状を監督と話し合い、その改善策を考えるという役割を任せていただき、私は微力ながら、チームに貢献できていると思うようになりました。思い返してみると、中学生時代、先生方に教わったことが自分の強みになっていると気付きました。それは人前で話をしたり、周囲を俯瞰し、集団がよりよくあるために何をすべきかについて多くを教えられ、経験させて頂いたことです。そのことに気づいてから、次のステージで輝く何かを人に与えられる「教員」という職業に憧れを持ちました。その夢を叶えるべく、3年生に進級すると同時に部活動に区切りをつけ、受験勉強に励むことを決めました。

それからは朝部の準備をするみんなを横目に登校し、勉強に奮闘する毎日。何をすることも一緒だった仲間がそばにいないのは心細く、孤独に感じることもありました。

しかしこの経験があったからこそ、仲間とは何なのかに気づくことができました。自分にとって仲間とは、「頑張る理由になる存在です。思うように結果が伸びず、何度も勉強から逃げたい、投げ出したいと思いました。その度に頭に思い浮かび、励まされたのは、目標達成のために努力を惜しまず、本気でサッカーと向き合う仲間の姿でした。環境は違えど、大きな目標に向かって走り続ける仲間の姿は、いつも自分の「頑張る理由」でした。みんながいるからこそ、自分は今でも志望校合格に向け受験勉強を続けることができます。今まで憧れ続けた仲間、今度は自分が良い報告ができるよう、これからも努力を続けます。そして自分もいつか、「誰かの頑張る理由」になれるような大人を目指します。(R.I)

○私はこの3年間、学年議長団に所属している中で、たくさん成長することができました。1年生の時、後期の学年議長がなかなか決まらず勇気を振り絞って手を挙げたことを覚えています。議長になったばかりのころは学年の前で話すことも、指示を出すことも嫌でしょうがないと、割り切ってやっていましたが、数を重ねるうちにやりがいを感じるようになりました。自分の言葉で自分の思いを伝えることの楽しさを覚え、人前で話すことも好きになりました。また議長として在校生発表を作りあげることもできました。在校生発表は学年全体で新入生や先輩方に思いを伝えられる大切な場所です。発表の中で新入生の笑顔や先輩方が涙する姿を見た時、思いが伝わったと嬉しくなり、達成感を感じました。

3年生の後期は議長にはなれませんでした、とても有意義な時間でした。議長を離れてみて、今までの議長団を客観視することができ、これからの議長団がどうあるべきかをじっくり考えることができました。

その中で私は私にしかできないことをしようと決めました。議長を経験したからこそ分かること、それは私にしか伝えることができません。そして仲間とともに協力しながら腐ることなく、自分のやるべきことをやりきれた後期の時間は大切なものになりました。・・・最後に日福での3年間はあっという間でした。新しい友達との出会いから始まった高校生活が終わってしまうのは本当に寂しいです。しかし、これから進む道は自分で決めた道です。この3年間で得た行動力と自分の思いを伝える力を最大限生かして、子どもにも保護者にも信頼される幼稚園教諭になります。3年間私を支えてくれたすべての方々、本当にありがとうございました。いつでも笑顔であふれる日福が大好きです。(A.Y)